

# 「私たちの救いのための主の十字架」

ヨハネ19：16－30

堀田修一 23・4・2

本日の箇所を読んで、主が負われた私たち人間の罪の負債の大きさを深く感じない人は、非常に冷淡な心か、思いやりのない心の持主だろう。私たち罪人のために、このような十字架の苦しみを自発的に引き受けて下さったことをこの受難週に心から感謝したい。私たち罪人に対する主の愛がいかに大きいか、心から感謝したい。私たちの救い、罪の贖い、償いが私たちに与えられるためには、このような大きな主の身代わりの痛み、死が必要とされたことを深く自覚したい。また、それほど私たち人間の罪（真の神を神としない自己中心、偶像礼拝、汚れ、憎しみ、恨み、嘘、不正、盗み、欲張り等）は大きいことを自覚し、神に悔い改め、神に心から感謝したい。

I 「イエスは自分で十字架を負って、『どくろの場所』と呼ばれるところに出て行かれた。そこは、ヘブル語ではゴルゴタと呼ばれた」：17。このみことばに深い意味がある。それは主が御自身を私たちの身代わりに提供された謙遜の極みを示している。極悪人たちが科せられた罰の一部として、彼らは処刑場まで自分の十字架を運ばなければならなかった。これが罪のない主にも私たちの身代わりに科せられた。主は完全に罪人として数えられ、私たちの代わりにそのように見なされた。さらに、これは、モーセ律法にある罪のためのいけにえという重要な予表（主の十字架のいけにえを指し示す）の成就だった。「罪のためのいけにえの雄牛と、罪のためのいけにえのやぎで、その血が贖いのために聖所に持って行かれたものは、宿営の外に持ち出し」（レビ16：17）と記されている。判断力を失ったユダヤ人たちが、主を城壁の外で十字架につけるように狂気じみてローマ人たちに迫った時、彼らはこれまで一度も見ただけの最高級の罪のためのいけにえを、そうと気づかずにささげていた。「イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で痛みを受けられました」（ヘブル13：12）と記されている。私たちは、まず、主の十字架の苦しみに示された主の深い愛に感動し感謝し、主に喜んでついて行きたい。日々歩みの中で、主の愛と主の痛みにあずかり、主の死に結びつけられ、不当な痛みを受けるとき、主が、世界最大の不当な痛みを私たちのために味わわれたことを覚え感謝しつつ主と共に歩みたい。私たちは皆、主の足跡に従うなら不当な痛みに会う。その時、次のみことばで励ましを受けたい→「もしだれかが不当な痛みを受けながら、神の御前における良心のゆえに悲しみを耐えるなら、それは神に喜ばれることです。…このためにこそ、あなたがたは召されました（神に呼ばれ救われました）。キリストも、あなたがたのために痛みを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。キリストは自ら、十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた」（I ペテロ2：19－24）。私たちも、人生の中で不当な痛みを受けることがあります。その時に祈りましょう。「自分で人に復讐することがありませんように。主が私を愛し不当な痛みを受け、聖なるさばきは、正しくさばかれる神に任せられたように、私も正しいさばきをすべてを知っておられる神にお任せできますように」と。「自分で復讐してはいけま

せん。神の怒りにゆだねなさい。…『復讐はわたし（神）のもの。わたしが報復する。』（ローマ12：19）

Ⅱ 「イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロパの妻マリアとマグダラのマリアが立っていた。イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に『女の方、ご覧なさい。あなたの息子です』と言われた。それから、その弟子に『ご覧なさい。あなたの母です』と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った」：25-27。このみことばに注目したい。この箇所から、主が母マリヤに示された優しい深い愛の御配慮を見ることが出来る。肉体的にも精神的、靈的にも耐え難い苦しみの中で、主はなおもご自分を産んだ婦人のことをお忘れにならなかった。主は憐れみ深く、彼女の深い悲しみと目の前の悲惨な光景に打ちひしがれた状態を心に留めておられた。主は、母マリヤが、敬虔な信仰の人とはいえ、やはりひとりの母親として、息子の世界最大の不当な苦しみと十字架の死に耐えられない気持ちでいる事を知っておられた。そこで主は、ご自分を愛しており、主も最も信頼しておられた弟子（ヨハネ）に、短く感動的な言葉をもって御自身の死後の母マリヤのお世話を任された。「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。：26。それからその弟子（ヨハネ）に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。：27。ここで、私たちは主の中に、主を信じる人々の状況に対し、比類のない優しさ、思いやり、温かい配慮を与えて下さる救い主の姿を見て慰めを得たい。今の私たちに対しても、人知を遙かに超えた愛、優しさ、思いやり、悲しみへの深い理解、深い配慮を与えて下さっている。私たちは、まず、主の深い愛を受け続け、その愛で、家族、知人、友人、教会の神の家族のひとり一人を愛させていただきたい。自分には愛がないと自覚するとき、失望せず神に祈りたい。「私は愛がない者です。こんな罪人のかしらである私を愛しておられる恵みを感謝します。御聖霊により、あなたの大きな愛を私の心に注いで下さい」と。

Ⅲ 「イエスは…『完了した』と言われた」：30。最後に、この深いみことばを味わいたい。

1. 主は人類の罪の贖い、償いの大事業が終了したことを語られた。主はベツレヘムにお生まれになった日から33年後に、私たち罪人を救い、神の義を満足させるに必要なすべてのわざ、すべての支払い、すべての旧約聖書の約束、すべての苦しみを遂行された。主は、戦いに勝利し、三日目に復活し、その確実性を示される。
2. 主の死についての神の確かなご計画とご意思が、今や成就され完了したことを語られた。主が私たち人間の罪のために苦しまれるように永遠の昔から定められていたすべての苦しみを受け尽くされた。
3. 主は、神の聖なる律法を守るという業を終了された。主は私たちのかしら、代表として律法を完全に守られ、訴える悪魔は、主に一つも罪を見いだせなかった。主は律法の要求をすべて完全に満たすことにより律法を重んじ尊ぶべきものとされた。もし主が私たちの罪の負債のわずかでも残しておかれたなら、私たちには真の救いはない。私たちは罪の負債の支払い不能者として永遠に地獄で罰せられなければならなかったが、主は、十字架の血という最大に高価な代価で私たちの罪の負債の返済を完了された。ハレルヤ！

4. 主は旧約聖書の儀式律法の予表を成就し終了された。主はモーセ律法のすべてのいけにえが指し示していた主の十字架のいけにえを、ついに献げ終えられたので、もはや私たち人間の罪のためのささげ物は必要ではなくなった。古い契約は終了した。本日の新約の聖餐式＝「この杯は、わたしの血による新しい契約です」 I コリント 11：25。
5. 主はご自分の苦しみを終了したことを意味された。主は、御父からの使命＝「走るべき道のりを走り終え」られた。主が罪人たちから受けた苦しみと犯行の長い人生、中でもゲッセマネとカルバリで私たちの罪を負って下さった主の激しい苦痛が、ついに終わった。苦しみの杯は、とうとうついに飲み尽くされたのです。私たちの罪と救いのために！ハレルヤ！

祈り：主の私たちの罪のための十字架の苦しみ、愛を感謝します。私たちも愛する者とされますように！